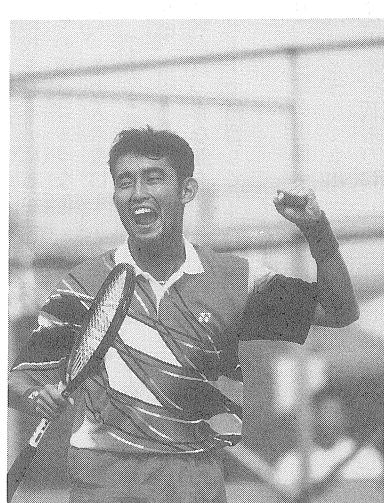


地歴科

体育科

諸会議報告

四度目の天皇杯 高川さん(41期G組)



(ソフトテニスジャーナル社提供)

高川さん(41期G組)は天皇杯(一九九九年全日本総合選手権大会)で四度目の優勝をした。決勝の対戦相手は後輩の土師(四十二期G組)さんだつた。

先輩の貫禄 さすが

昨年十二月二日小雨の中多摩カントリークラブで十二名参加のもと行なわれた。競技方法は新ペアリーカード方式で過去の優勝経験者はハンド二割引きとし、なるべく参加者全員に優勝のチャンスがあるようなど配慮された。

順位	氏名	卒期	GROSS	H'CP	NET
優勝	若月(先生)	85	10.8	74.2	
準優勝	山崎(22期)	101	26.4	75.6	
第3位	小林(18期)	95	19.2	75.8	
4	白鳥(23期)	98	21.6	76.4	
5	松本(先生)	95	18.0	77.0	
6	前川(3期)	99	20.4	78.6	
7	清水(7期)	99	20.4	78.6	
8	大谷(3期)	117	36.0	81.0	
9	福井(14期)	92	9.6	82.4	
10	奥島(15期)	107	23.0	84.0	
B.B.	河本(3期)	93	7.2	85.8	
12	永瀬(20期)	125	36.0	90.0	



ゴルフコンペ報告

雨は午前中であがり午後のバッカナイインは曇り空でまあまあ天候で参加者各自のスコアも後半の方がまとまつたようである。結果は若月先生が初優勝を飾った。各自のスコアは次の通り。

二十期D・G・H組合同
(松本修先生)
十一月二十六日(金)
二十期DGH組合同のクラス
会も毎年十一月下旬の金曜日に

ハンドボール部
十二月十一日(土)
サッカー部
二月六日(日)



ハンドボール部
十月十七日(日)
三十期C組(宮健二先生)
十月二十三日(土)
ゴルフ部
十月二十四日(日)

(石渡進記)
十一月四日(土)
「高校応接室」
九月十六日(木)
「高校会議室」
十二月四日(土)
「高校会議室」
二十九期G組(深谷元先生)
十二月四日(土)
「高校会議室」
四十九期D組(渡我部由紀先生)
十二月四日(土)

歌い再会を約束して終了しました。



OB会
OOG会
地理研究部
十月四日(月)

ハンドボール部
十月十七日(日)
三十期C組(宮健二先生)
十月二十三日(土)
ゴルフ部
十月二十四日(日)

歌い再会を約束して終了しました。

開催しています。孫のいる人もいますが、大半は大学生、高校生の子を持ち、経済的には大変な時期ですが、みんな頑張っているようです。来年は三十周年で盛大に開催することを約束して散会しました。

(永瀬肇記)

四十九期D組(渡我部由紀先生)
十二月四日(土)

四十九期G組(深谷元先生)
十二月四日(土)

歌い再会を約束して終了しました。

歌い再会を約束して終了しました。

頭の中は駒大高

26期B組 雨宮伸司



私のひみつ

金も無いのにゴルフなんかするもんか！ 現校長の河村先生から軟式庭球（ソフトテニス）部の顧問を引き継いだのが昭和四十五年、まだ自分が遊びたく

て、たいして部の練習も見ないで一年が過ぎたがそれでも団体戦東京都ベスト16・翌年は関東大会出場 次の年は何とインターハイ出場これで完全には

ゴルフ

教諭若道隆



(若月)「何言ってるんだ俺がゴルフ嫌いなの知ってるだろう」
(社長)「そこを何とか御願いします。」
(若月)「ダメ」
(社長)「先生、クラブもシューズもボールもプレー費も全部用意しますから」
(若月)「だめ」
(社長)「じゃあ日当一万円」
(若月)「行く」
これで完全に、はまつた。しかし二、三回練習場に行つたりでいきなりコース、OBは出

トリ一ペヌグロ優勝。浦先生に怒られた。

*おことわり、文中の日当は受け取っておりません。
(日本史)

私の趣味

また駒大高校を日本一にしよう、だからその頃はゴルフなんかしていると、その人の悪口を言っていた。(すみません)

昭和五十年頃、出入りのスポーツ屋の社長が真っ青な顔をして、テニスコートで練習して喜ぶは、さんざんの目にあって喜ぶは、さんざんの目にあつた。

曹洞宗の大龍山泉秋寺を訪ねて

私のお寺

る。

山門をくぐると左手には駒大高校の教育理念である「行學」をあらわしたような「お掃除小僧」の像とその向い側には梅花観音像を安置している。また、延命地蔵菩薩が中心に祭られている十王堂がある。

当山は元和年間(江戸時代始め)の開創である。御本尊は釈迦牟尼佛である。住職の鳥澤さんは当山が地域の皆さんのが心の場所となるように美しく庭園を整備し、周囲にあるお墓も常に清掃を怠らないよう心掛けているとのこと。



期生)さんである。
住職は第二十世鳥澤俊寛(三

山門の手前には世の人々を

いた。どこがお年寄りの

小田急線「渋沢」駅より丹沢山に向かって約二キロの所にあります。近くには水無川を利用した「秦野戸川公園」と新名所の「風

のつり橋」がある。
山門の手前には世の人々を

いた。どこがお年寄りの

期生)さんである。
住職は第二十世鳥澤俊寛(三

山門の手前には世の人々を

いた。どこがお年寄りの

いた。どこがお年寄りの

新宿かつ政

お店拝見

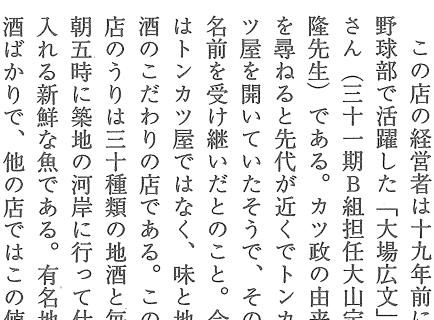
年の暮れの忙しいある日のことです。私の家に一通の同窓会原稿依頼が届いたのがそもそも

の不幸の始まりでした。封書の表書きは同窓会から、何だか今回は厚いなと思い、中を開けて

のかと嘆きたい気持ちでいっぱい

るは、ダフるは、三〇センチのパターは外すは、それを見て回りの連中は芝生の上を転げ回つて喜ぶは、さんざんの目にあつた。

(私学共済下谷病院 放射線科技師)



新宿かつ政

JR線新宿駅西口を出て二分、ヨドバシカメラ時計館の隣に、白地に黒ぐろとカツ政と書いた暖簾がかかる。暖簾をくぐると威勢のいい声で迎えられる。椅子席ばかり(六十脚)だが末広がりの店内は奥に行くほど広くなる。

この店の経営者は十九年前に野球部で活躍した「大場広文」さん(三十一年B組担任大山定隆先生)である。カツ政の由来を尋ねると先代が近くでトンカツ屋を開いていたそうで、その名前を受け継いだとのこと。今はトンカツ屋ではなく、味と地酒のことである。有名地酒ばかりで、他の店ではこの値段では飲めない。たっぷり飲ん

で食べても懐具合を気にしなくてもよさそうだ。
従業員十名をまとめ、口のこえたサラリーマンにも満足されるように、本物の味を提供している。周囲の店がチエーン化する中でがんこに自分の味で勝負している。

酒と魚に目のない人は是非ご来店を。

常客には大場さんの同期の野球部OBが多いが、昨年の甲子園出場以来先輩や後輩も多く来店して、旧交を暖めているところ。野球部ばかりでなく同窓生の来店も多い。

この店の経営者は十九年前に野球部で活躍した「大場広文」さん(三十一年B組担任大山定隆先生)である。カツ政の由来を尋ねると先代が近くでトンカツ屋を開いていたそうで、その名前を受け継いだとのこと。今はトンカツ屋ではなく、味と地酒のことである。有名地酒ばかりで、他の店ではこの値

段では飲めない。たっぷり飲ん

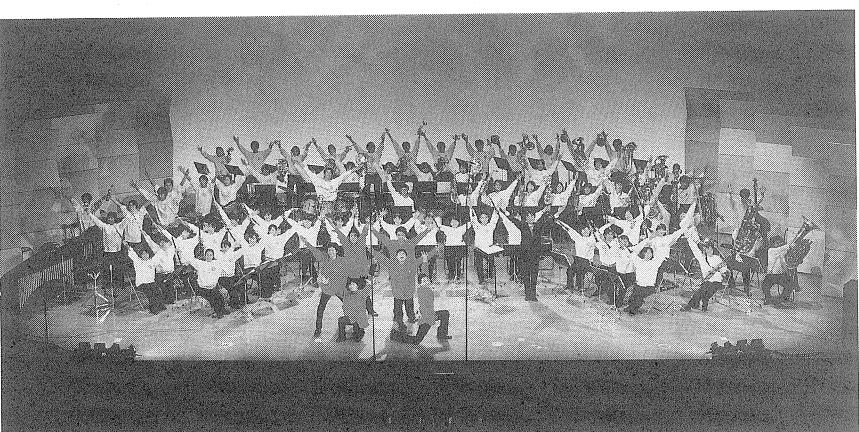
午前十一時～午後二時(ランチ)
午後五時三十分～十一時三十分
休業日 日曜日

住所 新宿区西新宿
電話 ○三(三三四四)〇六三五

校友会活動について

教 諭 菊 地 主 洋

吹奏樂部「第22回定期演奏会」



第22回定期演奏会(駒沢大学高等学校吹奏楽部)於駒沢大学メモリアルホール
1999.12.26 撮影:

吹奏楽部による「第二十二回定期演奏会」が、十二月二十六日(日)四時から駒澤大学メモリアルホールにおいて開催された。年の瀬の楽しみなイベントの一つとして、毎年、多くの人が来場し、その演奏に酔いしれる。例年、会場は駆けつけた多くのファンで満員となり、立見で聴いている人もかなりいる。演奏会はクラシカル曲を中心の第一部とポップス曲を中心の第二部の二部構成となつており、全体で三時間近くに及ぶコンサートであるが、時間のたつのも忘れる程、内容のあるプログラムとなつてゐる。特に今年は経済不況の中、明るい話題が少なかつた一年であつたが、会場に集つた人たちの世情不安を吹き飛ばし、音楽による夢の世界に連れて行つてくれるような演奏だった。第一部では「スター・ウォーズ組曲」が壮大な宇宙のイメージを挽起し、第二部ではジャズドラマーの大坂昌彦氏が客演として参加し、楽しいジャズの世界を繰り

平成九年四月に同好会として
発足した演劇部は、十二年度で
三年目を迎えます。様々な問題
を乗り越え実施してきた過去三
回の公演は、皆様の理解と応援
に支えられ、毎回満員・大好評
でした。コーチである川野芳徳
君(十一年度卒・劇団地球屋代表)
の指導による、他の高校演劇で
は絶対に見られない、個性と個
性のぶつかり合う躍動感溢れる
舞台展開は実に魅力的です。
眼前の人間が感じる世界に引
き込まれ、自分を登場人物に投
影し、いつの間にか自分も登場
人物の一人になつて様々な人生
をかいだ見ることが出来るのは
演劇の大きな魅力の一つでしょ

演劇部の紹介

演劇部顧問
松川誠一

広げてくれた。大坂昌彦氏はス
イングジャーナル誌の「日本
ジャズメン読者人気投票ドラマ

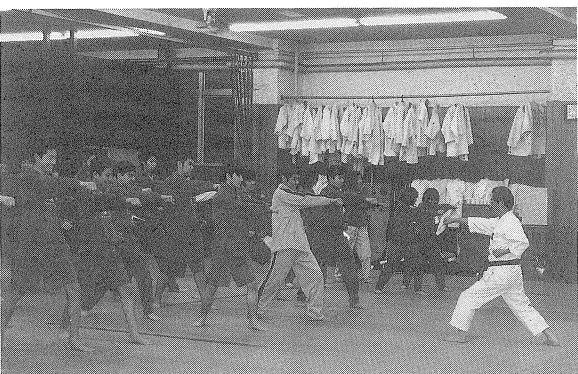
内に演奏会は閉幕した。顧問の吉野信行先生初め、吹奏楽部の皆さん、大変お疲れ様でした。次回も素晴らしい演奏会で会えることを楽しみにしています。

身心を育てる講座

士
講
義

空手道教室

教 諭 京 滯 隆 司



ス部門』で第一位に選ばれてい
るミュージシャンであり、吹奏
楽部のメンバーたちをリード
し、演奏に厚みを加えてくれて
いる。演奏会の企画の中には、

現代の日本において、一方で確かに子供はのびのびと成長しているようであるが、その一方で、様々な病理的現象が見られ、もする。戦後の国土の荒廃から

見事に復興を遂げた我が国であるが、今日ほど「人間の心」こんなにまで荒廃するであろうと予想した人は一人もいなかたと思います。精神の荒廃と

うよりも精神の焼け野原といふ
たほうが、ふさわしいようなん
の状態であります。実は貧
かった昔の日本の時代よりも
不安と不満と社会全体がスト
スを感じており、「心の教育」
が今さらながら叫ばれるゆえん
である。

学校は多くの子供の集まる場であり、その自主活動を通して社会性を伸ばし、公共的理念に目覚めるように実践的に指導ができる。したがって、道徳の時間、特別活動、自治的ボランティア活動等を重視していくべきである。

土曜講座の空手道教室を紹します。「日本が世界に誇りとする精神文化を経験してみせよ」か。身体活動の不足と精神的ろさを補う手段として参加しよう」との呼びかけに、約十名の多くが受講しています。

空手道は単なる格闘技術としてのみ習得するのではなく、高い理念にもとづく東洋的武道として追求することによって精神の糧にしよう理解し、頑張っている生徒の姿に大変うれしく思い、空手道を通じて「生きる力・人の心」を育む指導を推進していくことがいま求められていると受け止め、努力していくたいと思っています。

A black and white photograph showing a group of students in a school hallway. They are playing ping-pong against a wall that has a large, framed calligraphic inscription. The students are dressed in various styles of clothing, including jackets and shirts. The hallway has fluorescent lighting and a door visible in the background.

技」という実践の「動」の中から心を育てる要素があります。物事を落ち着いて正確に判断することができる心構えを養う

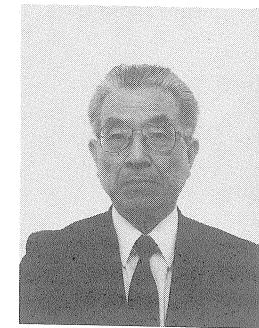
とともに、心地よい汗を流しながら心の垢を流すというまさに『身心を育てる講座』であります。

野球部の選抜甲子園初出場を記念して、野球部生徒、教職員甲子園出場後援会役員らが出席し、正門駐車場脇に記念碑建立

と桜木の植樹式が十二月十八日（土）に行われました。また、甲子園出場後援会から学校に記念の車（五人乗りライトバン）が贈呈された。

ハワイ英語の研修を実現

長 棟 梅 峰



「Visiting San Francisco, I was surprised at the Golden Gate....」「先生よく聞こえません。」最後尾辺りの学生が大声で叫ぶ。補佐教員が机間を蟹歩きでその方へと進む。無理もない、一クラス六十余名の学生がひしめいていたのだから。一九六三年初めて教壇に立った時のこと。戦後のベビーブームの波に乗って、この年空前の新人激増十五学級編成で受け入れ。マンツーマンの英語教育など思ひもよらず、授業の要点を騰写印刷、事前に配布して講義を進めた。

大学生の急増に伴い、一九六



思い出すまことに

渡 辺 宏

ビーブームで学級数が多く、学校行事も多人数でまとめて活気あふれた内容がありました。

私の在職は、昭和三十八年四月から昭和四十五年までの七年間でした。この期間はほど強い印象で思い出される時期はありません。二十代の教師としては、未熟で赤面するばかりの数々が甦ります。戦後第一次べ

六年駒大キャンパスから用賀新校舎に移転、英語は実地教育も必要と一九七一年ハワイ英語研修が実現。四十数名の学生がハワイ曹洞宗別院で生きた英語を学び、日系人の活躍を目の当たりにすることができた。この引率を契機として翌年ハワイ曹洞宗開教師並びに日本語学校長として家族と共に渡米。一九八十年までハワイ大東アジア言語学部講師も兼任。これらの体験が生涯国際交流の仕事をとの決意となつた。

帰国後駒大国際センター主事、米英加豪各大学間の交換留学生受入れ出し、英語研修学生率、一九九五年駒澤女子短大英語科講師、延六万人の英検・TOEFL・TOEIC受験生を直接間接に世話、来春定年退職の予定。

(昭和三十八年四月～四十七年七月まで英語科教諭として勤務)

大学生の急増に伴い、一九六

年七月まで英語科教諭として勤務。

渡辺 宏

や生徒集会でのお話は、今もつて心に残っております。「行学一如」の精神は、威儀即佛法と日々の生活態度、身だしなみを真剣に説かれていました。その後、あのような教育者には出会っていました。

小生は昭和四十二年に駒大卒業して、四年間奉職させていただきました。当時は東京五輪、また高速道路と玉電の地下鉄化工事が同時に進み、今日の駒沢の地に様変りしつつある時節でした。

小生は昭和四十二年に駒大を卒業して、四年間奉職させていただきました。当時は東京五輪、また高速道路と玉電の地下鉄化工事が同時に進み、今日の駒沢の地に様変りしつつある時節でした。

小生は昭和四十二年に駒大卒業して、四年間奉職させていただきました。当時は東京五輪、また高速道路と玉電の地下鉄化工事が同時に進み、今日の駒沢の地に様変りしつつある時節でした。

小生は昭和四十二年に駒大卒業して、四年間奉職させていただきました。当時は東京五輪、また高速道路と玉電の地下鉄化工事が同時に進み、今日の駒沢の地に様変りしつつある時節でした。

小生は昭和四十二年に駒大卒業して、四年間奉職させていただきました。当時は東京五輪、また高速道路と玉電の地下鉄化工事が同時に進み、今日の駒沢の地に様変りしつつある時節でした。

小生は昭和四十二年に駒大卒業して、四年間奉職させていただきました。当時は東京五輪、また高速道路と玉電の地下鉄化工事が同時に進み、今日の駒沢の地に様変りしつつある時節でした。

小生は昭和四十二年に駒大卒業して、四年間奉職させていただきました。当時は東京五輪、また高速道路と玉電の地下鉄化工事が同時に進み、今日の駒沢の地に様変りしつつある時節でした。

小生は昭和四十二年に駒大卒業して、四年間奉職させていただきました。当時は東京五輪、また高速道路と玉電の地下鉄化工事が同時に進み、今日の駒沢の地に様変りしつつある時節でした。

小生は昭和四十二年に駒大卒業して、四年間奉職させていただきました。当時は東京五輪、また高速道路と玉電の地下鉄化工事が同時に進み、今日の駒沢の地に様変りしつつある時節でした。

現 大阪府立桜塚高等学校 教頭

思い出いつぱい

高橋清尊



禅、赤倉でのスキー教室、九州への十泊十一日の修学旅行、用賀の寮での寮生との生活など昨日のように今でも心に残る良き思い出となっています。

大山教頭（当時）先生にはへば暮と言わねながら暮を教えてもらったり、幸前、広谷、市川

朝内先生等と一緒に、社会勉強のための厳しい研修会で鍛えていただいたことも懐かしい思い出です。

滋賀県に戻り、現在びわ湖大

事務長（当時）先生には深谷、

甲子園のスタンド、共学の新

しい、そして変わらぬ素晴らしい駒大高校の生徒の姿を拝見

し、感激に満った次第です。

私は昭和四十五年より三年

間、保育の教諭としてお世話になりました。バスケットの顧問

（素人）を任せられ、顧問より

しっかりと真間キープテン

（真間先生）に引っ張られ？な

がら四月、五月は休日毎に試合

に行っていたことを覚えていま

す。ベスト八、あと一勝でイン

ターハイ出場とか？スゴイチ

ムでした。

私は昭和三十八年四月～四十七

年七月まで英語科教諭として勤務。

渡辺 宏

や生徒集会でのお話は、今もつて心に残っております。「行学一如」の精神は、威儀即佛法と日々の生活態度、身だしなみを真剣に説かれていました。その後、あのような教育者には出

会っていました。

小生は昭和四十二年に駒大を

卒業して、四年間奉職させてい

ただきました。当時は東京五輪、

また高速道路と玉電の地下鉄化

工事が同時に進み、今日の駒沢

の地に様変りしつつある時節でした。

小生は昭和四十二年に駒大を

卒業して、四年間奉職させてい

ただきました。当時は東京五輪、</p